

当市域からは、弥生時代の石器や土器、銅銚などが出土しており、多数の古墳が確認されています。古代、中世には数多くの荘園が置かれ、一説には、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園があったことから小松島の地名が生まれたといわれています。また「勝浦郡村誌」によれば、源義経が当地に上陸したとき松に駒をつないだため、コマツナギ島と称し、これが地名の由来であるとされており、他にも、勝浦川の三角州上の「小松の島」に由来するという説もあります。

小松島の地名が文献に登場するのは鎌倉時代からで、小松島津(港)からは材木が積み出され、当時の文献からは、小松島の船が瀬戸内海で大いに活躍していた様子がうかがえます。

近世、蜂須賀氏が入国してからは太平の時代が続き、金磯新田などの新田開発が次々と行われました。農業が発達して耕地が急激に広がる一方、徳島藩の直轄地として小松島湾岸にある小松島浦に集落が形成され、急速に発展。港町として漁業や商業が発達するとともに、その中心である松島には藍商や紺屋などの商家が並び、当時の商業や金融の中心となりました。

その基礎を築いたのは、阿波藍を取り扱った藍商たちで、小松島の藍商は、北方の生産と販売権を握る問屋的藍商とは異なり、買い主と直接売買する仲買人的な方法で販路を大坂・江戸をはじめ全国的規模に拡大していきました。江戸中期には、そうした藍商を中心とする豪農・豪商らの経済力を背景に学問や芸術も盛んとなりました。



小松島という地名

古代、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園がこの地にあったことから、小松島の地名が生まれたといわれ、平安時代には中の湊として海陸交通の要衝となっていた。

Chapter I

In this municipal area, about thirty ancient tombs were unearthed, and stone implements and ware of the Yayoi period were excavated. A number of manors were established in ancient times and the medieval ages, and were important centers of transportation by land and sea. Komatsushima City in Edo era flourished as a commercial and financial center in Awa province, where the agricultural industry grew owing to developed newly reclaimed rice fields, and wealthy stores stood side by side in the port.

① 4世紀末期に造られた前山古墳、東側の丘陵からは埴輪も出土
② 勢合山から出土した高さ約39cmの「袈裟禪文銅鐺」
(県指定文化財・個人蔵)

③ 秋祭りに催される子供たちのやぶさめで知られる櫛淵石清水八幡宮